

令和6年度 第2回青森県DX推進会議議事録（サマリー）

日時：令和6年12月18日（水）15時～17時
場所：青森県庁西棟889会議室

1 開会

- ・ 出席者11名（欠席者1名）

2 青森県総合政策部長あいさつ

3 議事

(1) 青森県DX推進プランの進捗状況報告（令和6年度上半期）

ア 目標達成状況ダッシュボード（案）について

イ DX関連事業ロードマップの取組状況について

(2) 本県DX推進に向けたディスカッション

- ・ (1)(2)の議題について、事務局から資料に沿って説明を行ったあと、意見交換を行った。
各委員の主な発言は以下のとおり。

(1) ア 目標達成状況ダッシュボード（案）について

- ・ 中間指標のうち、総労働時間の減少幅については、企業の付加価値や、売上額に対して労働時間がどうなっているかという見方を取り入れると、生産的な指標に置き換えられるのではないかと。
- ・ 全国との比較や過去からの変化など比較対象が示されるとより伝わりやすくなる。
- ・ 東北3県のベンチマークがあるとよい。
- ・ なぜこの目標値を設定したのかを、中間指標に記載したほうがよい。それにより、数字だけが一人歩きして、数字が目標になってしまうことを避けられるのではないかと。
- ・ アウトプットとアウトカムに関連性を示すのは意外と難しいことだが、取組の目標となる数値をあげておかないと、何のためにやっているかということを見失いがちになってしまう。
- ・ 各委員からこういう指標はどうだろうかという意見が出てきたので、こうしたDX委員からの意見を理由にしながらDX推進課が各担当課にもう一步協力を求める形が取れるとよいのでは。

(1) イ DX関連事業ロードマップの取組状況について

- ・ DXを導入することによって、アウトカムに繋がるという観点を盛り込むと更に良い。
- ・ 「想像より良かったとか、悪かったとか、こういう失敗があって、こういうことをした」というプロセスが、DX、AX、変革の基礎になるところ。
- ・ 「どのようなDXの取組をしてきたか」という定性的な面を分かりやすくプロセスとして見せるだけでも、印象が変わる。
- ・ 成功例ばかりではなくて、失敗例もあれば、なぜそれができなかったかという点での気づきもあって面白いのでは。
- ・ 上手くいかなかった時や、上手くいかなそうな時に、機動的に身の振り方を変えることも、アジャイルの1つのキー。
- ・ スケジュールにとらわれすぎず、本来の目的にしっかりと到達するように動いていくことが一番大事なこと。

(2) 本県DX推進に向けたディスカッションについて

○県民のDX機運を盛り上げるための効果的な情報発信

- ・ 発信対象が全般になればなるほど見てもらえないものになるので、分野を絞った方がいい。
- ・ 何のために機運醸成をするのか、青森県として優先順位をつけ、それを達成するための状態目標をまず設定し、その上でどんな情報発信方法が最適なのかを検討する。
- ・ 農業、漁業、林業に携わる方の年齢が非常に高齢なので、DXに抵抗感があるように思う。分野を絞って、普及センターの普及指導員といった方々と連携しながら、例えば「今年はりんごの高生産できるようなDXに取り組んでいこう」とか、一緒に課題を解決していくような取組をしないと、農林水産業ではなかなかDXが

進んでいかない。

- ・ DXに抵抗感のある世代には、動画やWebリーフレットではない方法で繋げる。
- ・ 熱量のグラデーションを設計することが重要。一部の人の熱量が高く、多くの人の関心が少ないという構造だと、いずれ行き詰まる。この熱量をどうやってグラデートしていくのかという視点が、情報発信で重要なのではないか。
- ・ 今デジタル化を阻んでいる、自分に関係ないと思っている人たちにも、「関係あるよ、もうやっているよ」というメッセージを送れるとよい。
- ・ まず県庁の中、担当課の機運を高めることが大事。
- ・ 事業者や県民と接点を持っている、最前線にいる職員の皆さんが、DXを良いと思っていないと広がらない。これが楽しいとか、ちょっとワクワクするという気持ちを共有できて、初めてじわじわと熱量は広がっていくもの。
- ・ いろんな部署の人たちからあがる内容というのが、本来のニーズである可能性が高いのではないか。
- ・ （機運醸成の方法の一つである）コミュニティ形成のプロセスでは「ファンマーケティング」という考え方があるが、まず、DX推進したいと、変えたいと思っている職員（担当職員だけでなく）を各課で可視化していくことがファーストステップだと思う。
- ・ プロセスエコノミーというのがあって、その人が苦勞したり楽しんだりするプロセスがストーリーとして見えると、ファンが作られていくということに繋がる。

○あらゆる分野におけるDXの推進

- ・ 県内企業のDX支援を事業としている経験からいうと、一番の課題感は、困っていることが理解できない。そもそも、課題として見ていないということ。
- ・ やらなきゃいけないことは分かっているが、時間がないとか、時間を取る勇気がないとか、マインドの部分が大きいのではないか。
- ・ DXが進まない一因はマインドセットにあるので、育成も含めて、一緒に進んでいこうという方法論を議論できるとよいのでは。
- ・ それぞれの分野で成功事例の分かりやすい動画を上手く使っていくのもいいのでは。
- ・ 「DXって、何？」と、分からない人がいろいろ質問していくような形式で、どんどん解明していくというものがあると分かりやすいのでは。

5 閉会